

インマヌエル中目黒キリスト教会
2011年7月3日
聖日礼拝

ネヘミヤ記連講9

「神が戦ってくださる」

ネヘミヤ記4章14-23節

竿代 照夫 牧師



聖書朗読

旧約聖書

ネヘミヤ記4章14-23節

14 私は彼らが恐れているのを見て
立ち上がり、
おもだった人々や、代表者たち、
およびその他の人々に言った。
「彼らを恐れてはならない。
大いなる恐るべき主を覚え、
自分たちの兄弟、息子、娘、妻、
また家のために戦いなさい。」

15 私たちの敵が、
彼らのたくらみは
私たちに悟られ、
神がそれを打ちこわされたと
いうことを聞いたとき、
私たちはみな、城壁に帰り、
それぞれ自分の工事に戻った。

16 その日以来、
私に仕える若い者の半分は
工事を続け、
他の半分は、槍や、盾、弓、
よろいで身を固めていた。
一方、
隊長たちはユダの全家を守った。

17 城壁を築く者たち、
荷をかついで運ぶ者たちは、
片手で仕事をし、
片手に投げ槍を堅く握っていた。

18 築く者は、
それぞれ剣を腰にして築き、
角笛を吹き鳴らす者は、
私のそばにいた。

19 私はおもだった人々や、
代表者たち、
およびその他の人々に言った。
「この工事は大きく、
また広がっている。
私たちは城壁の上で互いに遠く
離れ離れになっている。」

20 どこででも、

あなたがたが角笛の鳴るのを
聞いたら、

私たちのところに集まって
来なさい。

私たちの神が私たちのために
戦ってくださるのだ。」

21 こうして、
私たちはこの工事を進めたが、
その半分の者は、
夜明けから星の現れる時まで、
槍を手にとっていた。

22 そのときまた、私は民に言った。
「だれでも自分に仕える若い者と
いっしょに
エルサレムのうちで夜を明かす
ようにしなさい。
そうすれば、
夜にも見張りがあり、
昼には働くことができる。」

23 私も、私の親類の者も、
私に仕える若い者たちも、
私を守る見張りの人々も、
私たちのうちのだれも、
服を脱がず、
それぞれ投げ槍を手にしていった。

説教

ネヘミヤ記連講9

「神が戦ってくださる」

ネヘミヤ記4章14-23節

竿代 照夫 牧師

主テキスト：

「私たちの神が私たちのために
戦ってくださるのだ。」

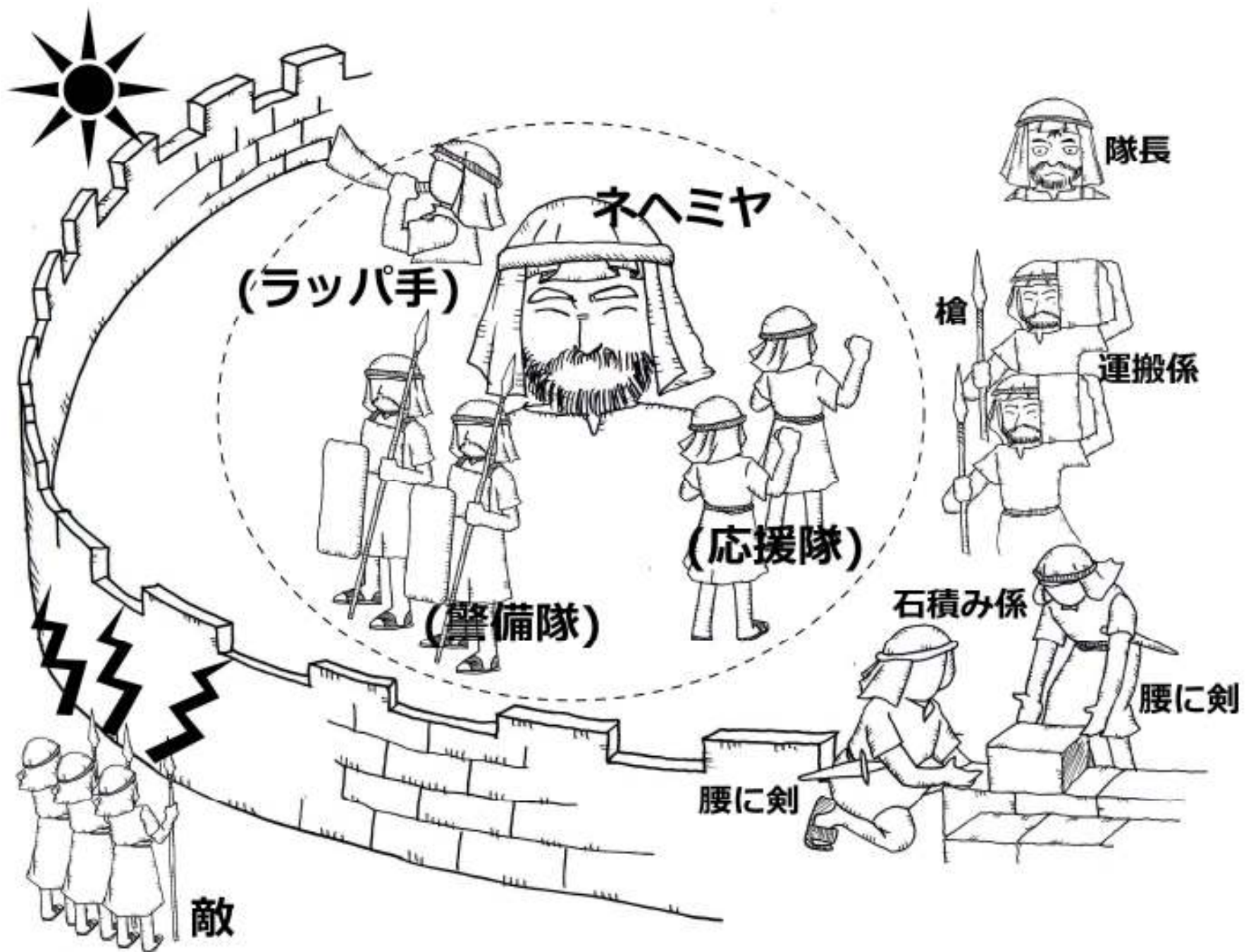
(ネヘミヤ4：20)

1. 工事を妨害する勢力

- 東西南北の諸部族による反ユダ同盟（地図参照）
- 武力行使の企み

2. 自衛手段と工事続行 (イラスト①)

- ①ネヘミヤ直属の部下を活用
 - ・半分は警備隊（16節a）
 - ・半分は応援隊（16節b）
 - ・ラッパ手（18節b－20節）



隊長

ネヘミヤ

(ラッパ手)

(警備隊)

(応援隊)

槍

運搬係

石積み係

腰に剣

腰に剣

敵

②区長たちにも防衛責任を
負わせる（16節c）

③工事人も武装する

- ・運搬係は、槍を片手に
（17節）
- ・石積係は、帯剣で（18節a）

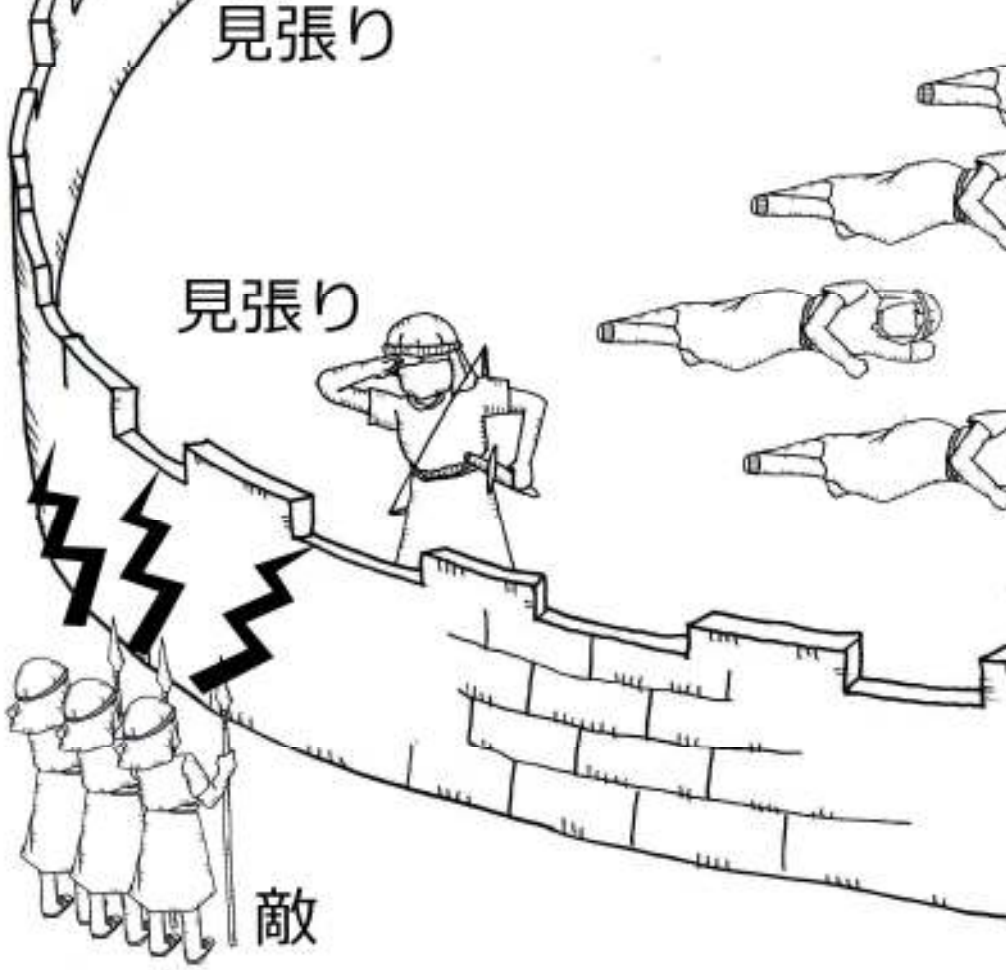
④突貫工事の継続

- ・日の出から星の出まで休憩なし
(21節)
(イラスト②)
- ・外泊なし(22節)
- ・着替えもなし(23節)

<この知恵は教会にも、
社会一般にも適用される>



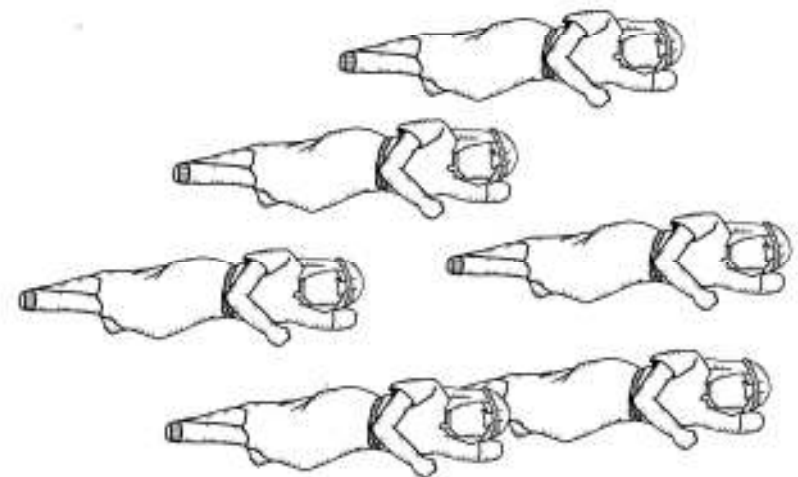
見張り



見張り



敵



服を着たまま

3. 主の助けへの信頼（20節）

- ① 「勝利は主から」という
歴代リーダーの信仰
- ・ 紅海を目前にしたモーセ
（出エジプト14：14）
 - ・ ヨシュアの遺言
（ヨシュア23：10）

- ゴリヤテに対峙した少年ダビデ
（1サムエル17：47）
- 戦いに向かうダビデ王
（詩篇60：12）

② 「神が戦ってくださる」
という信仰を捉えよう

- 「私たちの神が」という
近い関係が前提
- 自分達の働きや戦いも忘れない
- 日常の戦いは「私たちのため」
そして「主のため」である
- 直接的に干渉される神を信じる

おわりに：

神を、

「私たちの神」として捉えよう